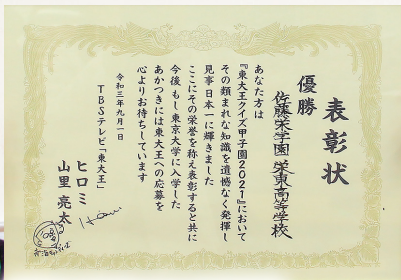




早押しクイズの練習



番組から授与された表彰状



(毎月1日発行) 発行 富士見市 編集 総務部秘書広報課 ☎049-251-2711 〒354-8511 富士見市大字鶴馬1800番地の1

広報「富士見」は、市内の公共施設や駅などにも置いてあります。声の広報「富士見」(音声DASIVプレイヤー)版は市内図書館で貸し出しています(市ホームページで聴くこともできます)。



今月のFujimist

桑名良治さん
(栄東高等学校クイズ研究部)

☎049-256-9535

「タウマタファカタンギハンガコアウオタマテアポカイフェヌアキタナタフ」まるで早口言葉のようなこの言葉は、ニュージーランドにある世界一長い地名である丘の名称だ。高校生の「知力の頂上決戦」とも言われるテレビ番組「東大王クイズ甲子園2021」(TBS・9月1日放映)で、この長い名称をすらすらと答えてお茶の間をわかせたのは、市内在住の高校2年生、桑名良治さん。全国から出場した300を超えるチームの中で優勝を勝ち取った、栄東高等学校クイズ研究部のメンバーの1人だ。

桑名さんが早押しクイズに興味を持ったきっかけは、中学生のころに見たクイズ番組。もともと雑学が好きだったため、すぐに早押しクイズの世界にのめり込んだ。それからは、1つの用語に対していくつも自分でクイズを作ること多面的に知識を学び、どんな形で出題されても対応できるように毎日努力している。

クイズの魅力は、「経験や努力すべてに意味があると実感できる」と桑名さんは語る。「自分が好きなア

テイストだったり、趣味だったり。今まで自分が積み重ねてきたことや、学校の勉強とは関係のないことだって『正解』という形で結果になる。無駄なことなんてないんです。今ではさまざまなジャンルに興味をわき、気になることがあると、とことん調べるのが癖になっている。

現在、桑名さんは部活の仲間とともに、県のイベントのクイズを作成するなど出題者としても活躍している。出題するうえで、一番難しいのは難易度調整だ。例えば、家族層向けでは、親子で一緒に考えられる難易度が求められる。大人も子どもと一緒に楽しめて、解けそうでいて簡単には解けない問題になるよう仲間と練り上げている。

さまざまな経験を経て、何かを成し遂げるには「自分を信じ、夢を見続けること」と「信頼できる仲間を見つけること」が大切だと気が付いた。現在の目標は「クイズ甲子園を2連覇し、その後の東大王チームとの対決に今度こそ勝ちたいです」と語るその瞳は、早押しクイズで回答権を先取したランプのように輝いていた。

<p>■市公式ホームページ</p>	<p>■ SNS</p>	<p>【カタログポケット】広報「富士見」を多言語で</p> <p>【マチイロ】広報「富士見」をスマートフォンで</p> <p>【テレ玉データ放送】テレ玉(地デジ3ch)視聴中にdボタンで市の情報を視聴</p>	<p>人口と世帯数(12月1日現在)</p> <p>人 □…112,431人(前月比 +88人) (男 55,299人 女 57,132人)</p> <p>世帯数…53,675世帯(前月比 +58世帯)</p>
-------------------	--------------	--	---



富士見市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。